

「普通」の受け止め方を比べる —発達障害当事者と定型発達者のPAC分析から—

今野博信 (学泉舎)

キーワード: ASD, こだわり, 障害理解教育

目 的

先行する質問紙調査で、発達障害当事者と定型発達者との間に「普通」という言葉に対する受け止め方の差があることが分かった。定型発達者にはあまり気にならない「普通」が、当事者には特別な感情を呼び起こしがちで、多くはネガティブな印象を与えていた。しかし、その違和感(こだわり)の具体的な内容については、明らかにされていなかった。

個別の聞き取り調査をおこなう必要があった。その際に、当事者には「普通」という言葉への特別な思いを問えるが、定型発達者には特別な思いがないこと聞き出す必要があった。そこで、自由連想から想起項目の相互関係を図式化し、そこからさらに質問を重ねられるPAC分析を用いることにした。

「普通」をテーマにしたPAC分析を実施することで、当事者の感じる違和感の内容を明らかにし、定型発達者における「普通」に関する違和感の無さについても確かめることを目的とした。

方 法

発達障害当事者4名、定型発達者4名の調査協力者を得た。性別と年代別は、当事者:男性3名(20代2名と30代1名)と女性1名20代、定型発達者:男性2名20代と女性2名60代であった。個人情報保護などを説明した。

刺激文として次の文章を用いた。この文章を口頭で読み上げ、ノートパソコンの画面に表示させてゆっくり2回繰り返した。

あなたは、「普通」という言葉についてどのような印象をもっていますか。何気ない会話にも、いろんな使われ方をしています。ここでは、自分のこれまでの生活を振り返ってみて、「普通」と言われて気になったことや、自分から「普通」を使って相手を困らせたことなど、なるべく具体的な場面を思い出してみてください。

実際に「普通」という言葉が使われた場面での印象、または自分で使ったときの感じなどで、心に浮かんだものを、そのまの順番で教えてください。聞いたままを記録していきます。

データの収集にはPAC Helperを用い、その後のデンドログラム作図には、HADを用いた。調査時期は2017年10月から翌年2月までで、調査時間は1.5から2時間であった。

結果と考察

当事者は、項目のポジティブとネガティブの評価

が拮抗し($t=2.024, df=6, p<.05$)、類似度評定では、近い1や遠い7の両端の値をとることが多く見られた($\chi^2(3)=17.91, p<.01$)。自閉傾向があると分かりやすさを好むので、二値的評定になると解釈できた。ポジティブとネガティブの併存は、当事者には強いストレスを与えるものと想像できた(Figure 1)。

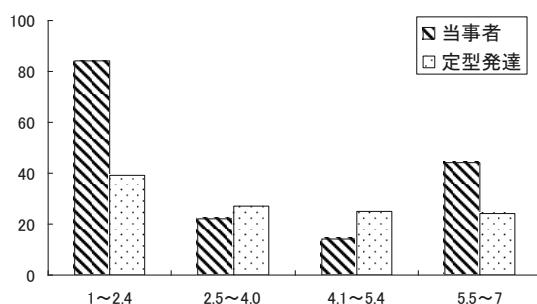


Figure 1 両群の評価の頻度

個別の語りから、当事者の「普通」には過去の具体的な場面想起(Table 1)があることが示された。A(当事者)3は、負のイメージの乗り越えを語ったが、それ以外の当事者には過去にとらわれる発言が見られた。定型発達者には、一般論的な感想や同語反復などが見られた。こうした差を踏まえた障害理解教育の普及が望まれる。

Table 1 過去事例の想起内容

A1	- 仕事で、普通はこうだ、と言われ傷ついたが、それはその人の非常識かもしれない + 成績中位の時にも言われた - 子どもの頃、普通に、と言われて困惑した
A2	- 普通の人より遅いと言われた + 興味のあることに集中しすぎた子どもだった
A3	- 計算などで時間がかかりすぎと言われた △ ここでは普通そうするよね △ 質問しすぎて普通ならそんなにしないと言われた + 普通ならこのタイミングでそんなこと言わないと言われた
A4	- 就職時に、普通言われなくても分かるのに、と言われた(前提とか経験とかあるはずなのに簡単に言うなあ) - 初めて経験することについて説明がないと困る(他の人は初めてでも出来ていた時に少し恥ずかしかった) + 学生時代高校時代に持ち物のことで、言ってくれないと分からないことがあった
B3	- 自分だけが出来た優越感 + 普通に解けばいいと言われて困った
B4	△ 友だちとの会話で、普通と言われて楽しかったのかどうか分からず困った △ 陸上競技の大会で、成績を普通と言われて不満だった - 小学校のマット運動で、普通にできるはずなのに、と思った - 水泳の練習で普通にすれば水に浮くのにばたばたするのが不思議だった